様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	令和８年度　第１回文化芸術推進審議会
開　催　日　時	午前１０時００分から 令和８年８月６日(木) 午後　０時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所　２階２０１会議室
出席委員(者)氏名	廣瀬正子委員、峯健二委員、小松弥生委員、渡辺弘委員、 服部伽音委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	生涯学習課　油川誠課長、山崎功二主幹、川島和也主査 萩原麻友主事
会議次第と会議の公開又は非公開の別	≪会議次第≫ １　委嘱式 ２　あいさつ ３　開会 ４　自己紹介 ５　議事 （１）正副会長の選出について （２）吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について （３）第２次文化芸術推進基本計画の策定について ６　その他 ７　閉会 ≪公開又は非公開の別≫ 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍　聴　者　の　数	０名
会議資料の名称	次第 吉川市文化芸術推進審議会委員名簿 吉川市文化芸術推進審議会の目的及びスケジュールについて 吉川市文化芸術推進審議会　令和７年度文化芸術事業実績報告書

	第２次吉川市文化芸術推進基本計画の策定について（諮問） 第２次吉川市文化芸術推進基本計画　検討資料 吉川市文化芸術推進基本計画
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	廣瀬正子委員、服部伽音委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	**１　委嘱式** **２　あいさつ（教育部長）** あいさつ後、岡﨑部長退席。 **３　開会** **４　自己紹介** **５　議事** （１）正副会長の選出について ・立候補・推薦なし ・事務局案提示　会長に渡辺委員、副会長に廣瀬委員 ・全員一致で事務局案賛成 ・会議録署名委員の指名について、廣瀬委員、服部委員を指名。 （２）吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について
渡辺会長	・事務局より説明を求める。
事務局	・資料に基づき説明。
渡辺会長	・質問、意見はあるか。
廣瀬副会長	・生音コンサートの入場者が３２４人とあるが、勿体ないと感じた。私は合唱の活動をしているが、合唱をしている人でも歌以外は関心がないと

	いう人もいるため、音楽が好きだから鑑賞に来るという訳ではないが、チケットも低廉で、素敵な演奏会だったので、公民館のホールが埋まるくらいＰＲができたら良かったと思う。 ・文化財企画展の来場者は２４８人とあるが、この人数は市としてどう捉えているか知りたい。私自身は戦時中のことは知らないが、資料を見て、話を聞き、吉川にも空襲があったことを知って驚いた。こうした展示会は８０周年でなくとも折に触れてやっていただきたいと思う。以前に、公民館でも展示をやって欲しいと言った覚えがあるが、公民館でもやっていただけたら、もっと多くの方が見られると思う。
峯委員	・生音コンサートのアクティビティの参加人数は、児童の人数か、或いは保護者も含まれるか。
事務局	・小学校の授業の中で実施しているため、児童の参加人数である。
峯委員	・対象は５、６年生ぐらいか。
事務局	・今回は美南小学校の６年生を対象として実施した。
峯委員	・生音コンサートのアンケートの年齢を見ると、２０代・３０代がほかと比較してかなり少ない。このイベントは未就学児が入場できないと記憶しているが、２０代・３０代だと育児のために、聞きたくても聞きに来れなかったということも考えられる。今後実施するときは、託児についても検討すれば、２０代・３０代の来場者も増えるのではないか。できればそうした若い方々に、市で開催するイベントに積極的に参加してもらえたらと思っている。 私は自治会の役員をやっているが、自治会も若い世代が加入しない状況がある。やはりお互いが顔を合わせないと、考え方などを掴みにくい部分もあるので、ぜひ若い世代が見に来られるように考えてもらえたらと思う。
小松委員	・それぞれのイベントについて、来場者の目標値を作っているか。目標値は必要だと思う。やるからには何人ぐらい来てほしいという目標値を定めて、その目標値に向けて施策を打っていく。年齢層についても、どの年齢層を対象にするかによって、広報の仕方は異なるし、託児ルームを作るといった、施策の打ち方も変わる。また、万遍なくというのも難しいと思う。万遍なくではなく、どのような層の人に向けて開催するかということは考えても良いと思う。 私が美術館にいた時は、企画展毎にターゲットを決めて、それに応じた広報を行っていた。最近はインターネットで色々な情報を入手するので、若い人に来てもらいたいと思ったら、インターネットを活用するなど、目標を定めて、それに向けた戦略を作って行くことは大事である。また、予算についても、そのためにどのぐらい投資をするかということをもう少し考えた方が良い。

渡辺会長	・演劇プロジェクトについて、年々工夫されていると感じる。衣装スタッフや企業協賛で観覧者を増やすというように工夫をされていて良かったと思う。作品自体については、途中で終わってしまったという感じがした。アンケートの感想にあるとおり、自分で考えるということだと思うが、子ども達にもう少しだけ何か伝えて欲しかった。ただ、ここは色々な見方があるところだと思っている。 ・生音コンサートという名称について、今はあまり使わないと思うので検討してはどうか。また、全国では子連れで入場でき、喋っていても、途中で退席しても良いという自由な形のコンサートが開催されている。そうしないと、お母さん達が来れない。そういうコンサートを設定するのか、それともちゃんと聞いてもらうのか、何か工夫が必要だと思う。若い方をターゲットにする場合、そうするとすごく楽に参加できる。アーティスト側も分かっているので、そうしたコンサートも面白いと思う。
服部委員	・生音コンサートと演劇プロジェクトで説明があった三角ポップによる広報については、効果がどれだけあるだろうと感じた。 ・資料の中にアンケートの結果があるが、アンケートでは来場のきっかけについても取った方が良い。目標人数について意見があったが、それだけでなく、前年比が資料にあり、増減の状況が視覚的に分かると良い。アンケートの自由意見について、良かったという意見の割合が多いため、課題につながる意見も資料に記載して欲しい。 ・演劇プロジェクトについて、出演するだけでなく、スタッフとしての関わりについて説明があったが、良い取り組みだと思う。私も広報に関心があるため、力になってくれる方は多いと思うが、全体として参加人数が伴わないのは、広報力が足りていないからだと感じる。駅やバスでもそうだが、市内を歩いていても、ポスターが風景化しており、目に留まりづらいと感じる。私は母が広報紙を読むので、知る機会があるが、知ろうとしないと知れないことが課題であると感じる。八坂祭りには多くの人が訪れるが、いつ開催かということを気にして見ている。ポスターのデザインなどを気にしなくても、八坂祭り自体が認知されているから人が来ていると思うので、どうしたら人が来てくれるのかということをもう少し考えた方が良いと思う。 ・文化財企画展について、文章を読む、見るだけだとハードルが高く、若い人は敬遠してしまう。ワークショップを開くなど、一つ動作を加えてはどうか。他で実施されている事例なども参考にしながらやっていただけたら、もう少し関心を持ってくれるのでないか思う。 ・若い人の参加が全体的に少ないのは、広報力が足りていないからだと思

	う。塾講師をやっており、中学生と関わる機会があるが、中学生は部活もあって忙しい。それでも、サーカスを見に行った人は多い。視覚的・語感的に惹きつけるものがないと、若い人には伝わりづらい。生音コンサートも、例えば大学生以上なら関心があって見に行く人はいると思うが、中学生では目に留まりづらいと思う。ＳＮＳを強化することも良いが、どう興味を持ってもらうかというところを効果測定をして分析をした方が良い。 その中で、ベートーヴェン献立給食は良い取り組みだと思った。食を通じて、吉川市がやっていることを知ることができ、関心を持つことにつながると思う。若い人の関係人口増やすために、給食を対象にしたのは良いと感じた。
廣瀬副会長	・給食については、吉川市に因んだ郷土食が表彰されたという記事が広報紙に掲載されていた。吉川市の給食は全国的なコンクールに出していたり、試食会があったり、地産地消にも力を入れていて、先進的な印象を持っている。
小松委員	・食文化は日本全体で盛り上がっている。文化庁も食に力を入れている。
峯委員	・文化連盟では毎年１２月に、演奏家を招いた文化芸術祭を開催している。このイベントではチケットを一枚５００円に設定しているが、チケットは置いてあるだけでは集客につながらないと実感している。文化連盟の会員の方には口コミでインフォメーションしてもらい、当日券の広報もするが、３００席から３５０席ほどしか集まらない。こうしたイベントの集客はすごく難しくなってきていると感じている。先ほどから集客について意見が出ているが、例えば公民館のホールなら５００人定員だから５００人を集めるように動くのか、来る人だけが来れば良いとするかによって、動き方がかなり変わってくると思う。例えば、文化財企画展で言えば、期間中に何人来てほしいと目標値を定め、そのためにどういう広報をするのかというところまでを含めて企画であり、実行だと思う。待っているだけでは先細りになっていくので、その点が今後の大きな課題ではないかと感じている。
渡辺会長	・本当にそれに尽きると思うので、今後ぜひ検討していただきたい。
	（３）第２次文化芸術推進基本計画の策定について
渡辺会長	・事務局より説明を求める。
事務局	・資料に基づき説明。
渡辺会長	・変更点として、ウェルビーイングが入っていたり、基本目標３に「行政、市民、民間団体、事業者等の連携・協働」がプラスされていて、まちづくりとしては当然かと思うが、実はこれも大事である。そして「吉川ら

	しい文化芸術」の醸成というものが入っている。前と比べて変化がいくつかあるが、特に資料３に示された内容などについて、議論するということで宜しいか。
事務局	・そのようにお願いする。
廣瀬副会長	・資料１の第１次計画の課題の２点目「文化芸術に関する情報が十分に行き届いていない」や、３点目の「質の高い文化芸術に触れる場の不足」ということを解決するため、第２次基本計画の基本目標などを設定しているが、吉川市の場合、越谷市と松伏町に隣接し、サンシティという音楽ホールがあり、１年間を通じてプロの演奏や演劇などの色々な催しがある。吉川市に地理的に近い越谷市で、一流の演奏や能楽などの日本文化を含め、様々なものを見たり、聞いたりできるので、それで足りてしまうということはあるかもしれない。 松伏町にはエローラもある。私はサンシティの会員だが、会報誌が届くと関心がある催しをチェックして申し込んでいる。吉川市民で公民館やおあしすには行ったことがないという人でも、市外の演奏会に行っている人は結構いると思う。私は高齢者なので、交通費かからず、身近な吉川でやれたら良いと思ってしまうが、そういうことも頭に入れてもらう必要はあると思う。 ・公民館には反響板があって設備が整っていると言われているが、現実は舞台の後ろには反響板がなく、あのホールではできないという演奏家もいると聞いた。吉川美南駅に計画している新しい施設では、大きくなくて良いので、そうした音楽ホールを作って欲しいという希望を文化連盟の会長にもよく話している。中央公民館やおあしすのような半端なものではなく、外部から招く演奏家の方が、「あのホールならできる」というような完成度の高いものを作って欲しいと思っている。
峯委員	・私は絵の展示会を公民館でやっているが、実際の展示場所はロビーである。本来は、決められた空間の中に作品があり、それをゆっくり見るというのが絵画の基本的な鑑賞のやり方だと思っている。ただ、そうした機能を求めるのは、人口規模や吉川市の状況からすると厳しいという思いもある。先ほど廣瀬副会長が言ったように、例えば音楽のコンサートなら越谷市に行くし、能楽堂も越谷市にある。三郷文化会館の大ホールや小ホールも、充実した環境になっている。他に行けば経験できるところがたくさんあるので、そういうものを見たければ、そういうところに行けば良いのかなと思う。では、吉川市で市民のための文化芸術拠点にするにはどう考えたら良いかと思うと、規模が大きいものを考えないで、コンパクトにした中で、充実した文化芸術が体験できるようなものに特化した方が良いと思っている。計画している吉川美南駅の公共施設も、

	例えば展示会やミニコンサートなど、内容に応じて使い分けできると良い。大人数を期待しないで、１００人や２００人位の小規模なものを対象にして、文化芸術の拠点作りを考えた方が良いと思っている。 第２次計画の基本理念や基本目標を立て、最終的に吉川市が文化芸術に対してどういう着地点を求め、そのために何を準備しなければならないか、進めている施策が正しい方向に向かっているかということを審議していければ良いと思う。
小松委員	・峯委員が疑問に思っていることは尤ものような気がしている。本日の会議も、前半はイベントの報告だったが、文化芸術はイベントではない。鑑賞に行くことだけではなく、生活の中で文化や芸術を意識しないけれども、じわっと根付くということが理想である。例えば、洋服を選ぶ時にも自分のデザイン感覚が必要になるし、先ほどの給食もそうだが、吉川市に住んでいるから地元の食材を使うということを考えるように、文化芸術ももう少し身近に考えたいと思っている。この案では、文化芸術が高いところにあって、それに手が届くようにしたいという、全体として旧来型のような印象を受ける。それでは半数ぐらいの人が参加していないとか、鑑賞にも行っていないという状況は変わらないと思う。行きたいが行けなかったという人については、何らかの障害を取り除いてあげることによって、文化芸術の場に来てくれると思う。そうでない人にも、こちらに来てもらうにはどうしたら良いかということを常々考えているが、吉川市では色々な部局の事業に文化芸術の観点を入れることに取り組んでおり、これは以前から良いと思っていた。だた、それが結局、コンサートや展示をやったというものだけになっていて、もう少し何でもないもの、例えば企業の事業活動に文化の観点を入れてもらうとか、あるいは職員の福利厚生で奨励してもらうなど、もう少し広がりをもった他部局への展開があると良いと思う。近年の国の文化政策では、文化の経済的な価値に着目している。文化で収益を得られるという発想を民間企業の人達にも持ってもらうと、企業の方々が文化的な方に目を向けてくれる。例えば、アート志向でイノベーション起こすという本が販売されている。特に、現代アートは既成概念を壊す。分かりやすい例えでは、マルセル・デュシャンが男性の小便器を買ってきて、それを横に倒してサイン書き、アートだと言い出した。みんながそれに驚いたが、アートとはこういうものだという考え方を壊すことによって、また次の発想が生まれてくる。そういう既成概念を壊すという考え方を経済の中にも取り入れていかないから、日本は真似事ばかりで、イノベーションが起きていない。 文化芸術がそういうことに役に立つということを上手く

	伝えていけると良いと思う。それは文化芸術に関わっている私達がやっていかなきゃいけないことであるが、そういうことを上手く取り込み、もう少し広く文化芸術を捉えていっても良いと思う。つまり、生活文化や娯楽的なものも文化芸術なので、それを入れてもいいと思う。示された案では捉え方が狭くて、みんな文化芸術と捉えても良い。私が以前に掛川市で勤めていたとき、当時の市長が、企業を誘致することも、新幹線の駅を作ることも全てが生涯学習だと言ってまちづくりを推進した。鑑賞機会を増やすことも良いが、鑑賞機会を増やすより、市民それぞれの生活の中に小さくても良いので、文化的なものや、芸術的なものが入り込んでいる、そういうまちづくりを目指しているのではないかと感じている。話が抽象的で、もう少し具体的にできれば良いが、私はそう思っている。
服部委員	・まだ案の段階なので抽象的だが、基本目標３にある「吉川らしい文化芸術」の「吉川らしい」という部分は考えるべきところだと思っている。先ほどホールの話でもあったと思うが、音楽なのか、演劇なのか、振り切って特化してしまっても良いと思う。三郷文化会館も立地はそこまで良くないがアーティストが来る。そこにファンが来るのは、アーティストの影響力以外に、音が良いとか、会場の椅子がふわふわしているとか、そういうところも見ている。新しい施設が整備されるのなら、何かに振り切っても良い。 ・小松委員もおっしゃっていたが、この世の全てが文化芸術である。私はデザインを学んでいるが、フォントも色も紙の素材も全てがデザインである。生活に溶け込んでいること全てにおいて言える。一つ取っても考え方が色々あり、色々なベクトルで考えることができると思うので、文化芸術という言葉に囚われ過ぎず、もっとカジュアルに、生活に溶け込んでいけるような施策になれば良いのではないかと思う。
渡辺会長	・資料２のアンケートなどの結果を見て、これは全国でも同様に抱えていることだと感じた。全ての市民が関心を持つことは難しい。特に、ここから東京や色々なところへ通っている人からすると、住んでいるだけという人もいる。コミュニティを作るのに、いま祭りというのは大事だが、なかなか関心が向かないということはある。 ・有料でも行きたいと思うようなコンサートをするということは、予算が必要ということである。アーティストを呼ぶには予算をかけなければならない。それをホールを作ってやるとなれば、呼ぶ人によっては２，０００席は必要とか、１，０００席は欲しいとなる。そうなってしまうと、いま作ろうと思っている施設では小さい。だから、吉川市らしい何かをし

	ようと思ったら、他の委員の皆さんがおっしゃるように考え方を変えなければならない。ほかと競争してもどうしようもなく、吉川らしい、プライドみたいなものを何で作るかということが、いますごく大事なことだと思う。
	・京都の福知山市も会館を作るかどうかが議論になり、市民は２，０００席を求めているが、市民が利用するのは１，０００席で良いというように意見が分かれていて、整備の時期が伸びてしまった。これはすごく難しく、数の論理でやってはきりがなく、数十億かかるとなれば、そこに反対運動が起きてしまう。そのため、これまで皆で芸術を積み重ねてきて、それがまちに還元されるということに丁寧に取り組んできたことは良かったと思う。いま取り組んでいることは良いと思うが、文化芸術拠点の整備が入ってきて、難しい局面に入ってきたかなというように感じる。ただ、これだけ丁寧に色々やっているのは良いと思う。
	・計画について、このあとはどう進めていくか。
事務局	・本日の会議では、基本目標とそれに紐づく施策の体系を見ていただき、今回お示しした施策の体系に、具体的な取り組みを紐付けて、次回にお示ししたいと考えている。施策の体系と具体的な取り組みを見ていただき、施策の体系の方を見直す必要があれば、次回にまたご意見をいただくこともあると思っている。
渡辺会長	・この考え方に基づき次回に具体的な取り組みの提示があるということで承知した。
事務局	・資料３の案をご覧いただいたが、生活の中のアートというところをもう少し意識づけて、芸術の力というか、芸術を知ってもらい、裾野を広げていくというところもイメージでは持っており、そういった点を具体的な施策と一緒にご覧いただき、ご意見をいただければと思う。今日いただいたご意見も反映しながら、次回の資料を作成していきたいと思う。
峯委員	・次回は現行の基本計画のような形で、資料として提示されるということか。
事務局	・イメージとして現行の基本計画の１１ページから１７ページまでのように、基本目標にぶら下がる施策の内容をお示しできればと考えている。
渡辺会長	・今後のスケジュールはどういう予定であるか。
事務局	・現状では、できればパブリックコメントを１月頃に実施したいと考えている。そのため、１１月下旬までに２回目の会議を開催し、１２月中に計画の形に落とし込み、１月にパブリックコメントを行うようなスケジュールを想定している。会議の１か月前を目途に案内と資料を送付できるように準備を進めたいと思う。例年は８月に第１回目の会議を開催し、

	２回目の会議を２月頃に開催していたが、今回は計画策定の関係で、１１月中には２回目を開催したいと考えている。
	・第１期の計画でしっかり議論されたものがあるので、それをベースに作っていき、ご意見をいただいて、反映させていく流れで考えている。
渡辺会長	・服部委員もＳＮＳの発信などは気になるところだと思う。
服部委員	・ＳＮＳ運用代行の企業でアルバイトをした経験があるので、そこは気にしている。
事務局	・委員の皆さんから発信を強化すべきという意見をいただいたが、そこは本当に悩んでいる部分である。そこにノウハウがないのが実情で、様々なイベントを開催しているが、広報は悩みどころなので、具体的なアドバイスをいただけるありがたい。
小松委員	・イベントの広報は公的な機関に勤めている人には難しいと思う。美術館でも自分達でやる広報は上手くない。企画展は民間企業の方で広報事務局を作って、資金を投じて広報している。公的機関にはノウハウもないだろう。
廣瀬副会長	・市の広報紙が頼りという人もいるが、市の広報紙を見ない人もいる。
峯委員	・自治会で広報紙を各班長に配っているが、他の自治会では、会員に配っていないと聞いた。そのため、私の自治会も今年度で広報紙の配布を終了する予定である。今後は、広報紙を見たい人は役所や公共施設に取りに行くか、インターネットで自分で見てくださいとなる。広報紙を有効な情報伝達手段の一つと考えることは難しくなるかもしれない。
服部委員	・市の職員は真面目そうな方が多いが、市の広報もそれと同じ印象である。もう少しカジュアルでも良いと思う。
渡辺会長	・ほかに意見、質問はあるか。ないようなので進行を事務局へお返しする。
	６　その他
	（１）吉川美南駅東口の公共施設について
事務局	・吉川美南駅東口に一部市有地を持っており、文化の拠点となる公共施設先を計画している。令和４年３月に基本計画を策定し、施設コンセプトやホールの座席数を決め、想定床面積１，７５０㎡の施設としている。差別化を図るという意見もいただいており、既存の中央公民館やおあしすとは違った施設を作っていくということで進めている。そこに音響反射板をつけられるかというと、難しい状況になっている。方向性としては演劇などの舞台芸術の要素を持つような施設になると考えているが、これは提案事業によるところである。こういう機能がある施設を求めるという要求水準を示し、民間企業から提案をいただく流れで整備してい

	きたいと思っている。スケジュールについて、令和８年２月に実施方針を示し、その後、官民対話による情報収集を３月頃に始めたが、募集要項案のところで立ち止まっている状況である。ホールについても具体的な考えを示した方がより良い提案が来るのではないかということで、内部で検討しているところである。吉川市の規模で３つのホールを持つのは、大きなことだと思っており、先ほど峯委員からもご意見があったとおり差別化を図るということも視野に入れて取り込んでいるところである。次回の会議でも状況を共有させていただきたいと考えている。
渡辺会長	・運営を直営にするのか、指定管理にするのかということもある。
事務局	・現状では基本的に指定管理者として、民間の方に運営してもらう方向で考えている。
峯委員	・この施設は最終的には市の公共施設になるのか。
事務局	・建物は市が所有し、運営を民間で行う、おあしすのようなイメージである。
小松委員	・ＰＦＩではなく、市が整備するのか。
事務局	・ＰＦＩ法のＰＦＩではなく、ＤＢＯという方式で整備する。設計・建設・運営までを性能発注する方式で、運営を見据えながら建物もデザインしてもらうことを検討している。民間施設との複合施設というパターンもあるが、権利関係で民間施設と公共施設を分けて建てるケースが多いと聞いているため、公共施設側については市の負担で、上限額の範囲の中で最も良い建物を作ってもらうというイメージである。
廣瀬副会長	・駅前のコアのようなイメージか。
事務局	・民間施設が同じ建物に入るかは提案による。イメージしづらいところがあると思うが、今後、吉川市としてこれだけは作ってください、これだけは譲れませんという要求水準書を示すことになるので、次回の会議ではその内容を説明したいと思っている。
	（２）次回の会議について
事務局	・次回の会議は１１月または12月頃の開催を予定。
	７　閉会 廣瀬副会長よりあいさつ

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和８年１０月１０日

署名委員　廣瀬　正子（自署）　　署名委員　服部　伽音（自署）